杉並区立
浜田山小学校

はまだやま

学校だより第５５３号
令和３年度８・９月号

校　長　　伊勢　明子
副校長　　越山　宗治

新競技から学んだリスペクト

校長　伊勢　明子

オリンピック観戦では、心に刻まれるシーンを子どもも大人もたくさん目にし、「ああいうふうになりたい。」「こういうふうに生きていきたい。」と感じたことがあったのではないかと思います。

私が目にしたのは、オリンピック新競技の女子スケートボードのワンシーンでした。予選をトップで通過し、決勝最後でその時４位につけていた岡本碧優選手（15歳）がファイブフォティという大技を次々と決め、最後の大技のフリップインディを失敗した後の光景でした。すでに滑り終えた外国人選手たちや四十住選手、開選手が泣きじゃくる岡本選手に駆け寄り、岡本選手を抱きかかえみんなでその健闘を褒めました。手堅い技で決め、３位までに入る選択肢があったにもかかわらず、自分のルーティンを貫いた岡本選手を称える姿でした。同じスケートボードの男子で金メダルを獲得した堀米雄斗選手はインタビューで「順位にこだわるより自分のベストの滑りをその日にしようと思っている。」「友達が技を決めたら拍手とかすごいねと素直にみんな褒める。」「大会が終わって負けてもハグしに行ったり、声を掛けたりみんなリスペクトし合っている。」と話していました。十代の若い選手が国籍関係なく勝っても負けてもお互いを認めリスペクトし合う姿は、これからの未来を生きる子どもたちに求めたい姿です。人と人との関係性の基本は、お互いを尊重することです。その最たるものが「挨拶」と考えます。

また、新競技のスポーツクライミングでは、「オブザベーション」といって登る壁を見ながらどう攻略するかライバル同士が考えることが行われています。銀メダルを獲得した野中生萌選手は「ライバルとなる選手と攻略法について一緒に答え合わせをする。ライバル意識はなく、一人一人のクライミングのスタイルをリスペクトしている。」と話していました。やはりスタイルの違いを認め、自分らしく表現することを重視する価値観です。多様性を受け入れ、尊重する社会の構築につながる可能性が新競技に臨む選手たちの姿から見えてきました。

８・９月の生活目標「時間を大切に使おう」

残暑厳しい日が続いていますが、２学期が始まりました。昨年度より取り組んでいる「あいてますか」を意識し、引き続き感染症対策に気を付けて過ごしていきたいと思います。夏休みの生活リズムから、学校生活のリズムを取り戻し、よりよい学期の始まりとしていきます。

８・９月の生活目標は「時間を大切に使おう」です。時計を見て行動することを心掛けるようにし、５分休みは学習準備の時間、中休みや昼休みは安全に気を付けて一人一人が行動していけるように推進していきます。水分補給などの熱中症対策や感染症拡大予防とともに、日々元気に過ごすことができるように、積極的に声を掛けていきます。１学期同様、ご協力をよろしくお願いいたします。